

こんにちは

村上高校です！

地域に開かれた魅力ある学校を目指して、本校の取り組みを定期的にご紹介します。
電話 0254-53-2246(教務室直通)
FAX 0254-53-3401

本校ホームページ(<http://www.murakami-h.nein.ed.jp/>)もご覧ください

平成27年7月4日発行



与える者は与えられる 比田井和孝氏講演

五月十九日、上田情報ビジネス専門学校副校長の比田井和孝氏を講師にお招きして進路講演会が開催されました。人は何のために生きるのか、という根本の話から、最後には応援パフォーマンス集団の「我武者羅応援団」の紹介に至るまで、予定時間をオーバーして二時間近く熱く語っていただきました。

【生徒の感想】

本当に今回の講演は感動しました。
・母の貯金を見た時に号泣しました。自分の態度を反省しました。「なんで自分ばかり」と人を責めていたら何もないことがないというのは本当だと思います。
・母の貯金を見て家での生活を変えようと思った。鉄道会社の話で違う考え方で日々生きようと思った。
・「我武者羅応援団」の存在は今回初めて知ったのですが、あつと言う間にファンになりました。あの日、「自分がこうなりたいと思った瞬間からどんな壁も乗り越えられる」という言葉には、とても感動しました。
・評価できないくらい素晴らしいかったです。

S Y D 講演会

五月二十三日、PTA総会に続きSYD(修養団)を講師にお招きして講演会がありました。SYDは内閣総理大臣の認定を受けた社会教育団体で「心の教育」一筋に青少年の健全育成を中心としたさまざまな活動を行っています。今、この時代でも学校に行かず家族と共に働かなくては食べていけない、貧困の生活をしている子どもたちの様子や、毎年訪問しているフイリピンの子どもの交流の話しに真剣に聞き入っていました。

【生徒の感想】

自分たちの当たり前が、どんなに幸せなことなのか気づかされた。
・世界にはいろいろな子どもたちや家族があって、今の自分はその中では恵まれている方なのだと思う。面倒なことがあるとすぐに文句を言う私は、自分のそういうところをとても恥ずかしく思った。
・ぎりぎりの生活でも幸福だと言える。自分がどれほど高望みをしているかに気がついた。日本でも当たり前でできることができない国もあることを忘れずに生活していきたい。
・貧困の中でも笑顔があった。日本の豊かな環境で育っても笑顔がない人々もいる。
・ストリートチルドレンはしっかりと夢を持っていて、明るかった。私たちはどうだろうか。ご飯も毎日食べられる、きちんとした家がある。なのに毎日不満ばかり抱えている。とても情けないと思った。
・使わなくなった文具を袋に詰めて贈ったり、現地の子どもたちと遊んだりして、余り堅苦しくないボランティアだと思った。

燃えた！体育祭！

6月10日、晴天のもと、体育祭が開催されました。本校の体育祭は、クラス対抗で行われます。生徒会が作成するプログラムには、昭和30年からの優勝クラスとその担任の名が一覧となっています。今年は61回目を迎えることになりました。栄えある総合優勝は3年5組平山クラスでした！

